学位論文抄録

石本 博子

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻生命倫理学

指導教員

門岡 康弘 教授

熊本大学大学院医学教育部博士課程医学専攻生命倫理学

Abstract of the Thesis

Background and Purpose: Cancer patients in university hospitals often face a difficult decision regarding transfer to other care settings at the end-of-life. Arrangements for a satisfying transfer are important for reducing the psychosocial impact of the transition, but few studies have evaluated this aspect. This study aimed to identify factors related to the satisfying arrangement of transfers to other care settings from university hospitals.

Methods: A total of 400 bereaved family members of cancer patients in Japan participated in this cross-sectional web-based questionnaire survey. Statistical methods including decision tree analysis were conducted to identify factors significantly associated with satisfying transfer arrangements.

Results: More than 60% of cancer patients were satisfied with the transfer arrangements made by university hospitals. Decision tree analysis revealed that the factor most significantly associated with satisfaction with transfer arrangements was 'satisfaction with contents of the explanation about transfer.' The following significant factors were also extracted: 'timing of being informed of transfer,' 'presence of primary care physician,' and 'presence of trustworthy staff.' 'Satisfaction with overall care from university hospital staff' and 'involvement of Palliative Care Team' were identified as factors contributing to a high degree of satisfaction with transfer arrangements.

Conclusions: In order to make satisfying transfer arrangements from university hospitals for cancer patients at the end-of-life, healthcare professionals should provide satisfactory explanations about the transfer process in order to meet the information needs of patients. To be effective, healthcare professionals should initiate transfer arrangements prior to cancer treatment, while simultaneously building trusting relationships with patients.

学位論文抄録

[目的]

我が国では医療制度改革により、高度専門医療機関に入院するがん患者は、人生の最終段階において療養場所を変更しなければならない。このプロセスは時に困難な決定となり、がん患者は心理社会的ダメージを経験することが報告されている。したがって、医療専門職は退院の調整や意思決定に十分に配慮する必要がある。本研究では、大学病院からさまざまな医療環境へ退院したがん患者の経験を記述し、退院調整に対する満足度の向上につながる要因を抽出した。

[方法]

我が国の大学病院においてがん治療を終了し、退院後に死亡したがん患者の遺族 400 名を対象に質問紙調査を 行った。大学病院で行われた退院調整の内容、入院中の患者の経験等について尋ねた。集計結果を決定木分析を はじめとする統計学的手法を用いて解析し、退院調整に対する満足度を向上させる要因を特定した。

[結果]

大学病院で行われた退院調整および療養場所の変更については、どちらも約7割のがん患者が満足していた。決定木分析により、がん患者が満足する退院調整に最も寄与した因子として「退院に関する説明内容に対する満足」が抽出された。さらに、「退院に関する説明を受けた時期」、「かかりつけ医の存在」、「信頼して話ができるスタッフの存在」も重要な因子であった。また、退院調整に対する満足度をさらに高める因子として、「大学病院のスタッフから提供されたケア全般への満足」および入院中の「緩和ケアチームの関与」が抽出された。

[考察]

人生の最終段階を迎えたがん患者が大学病院の退院調整に満足するためには、医療専門職は退院に関する説明内容に最も留意する必要がある。病状や予後に関する真実告知に対する受容能力や告知後のサポート体制の有無を考慮しながら、個々の患者が求める情報ニーズを把握し、それに応じて情報提供を行うべきである。このような退院に関する話し合いは、入院前からがん治療開始までの時期に開始されることが望ましい。また、患者が退院調整および入院中のケアに満足するためには、医療専門職は患者との信頼関係を構築しておくことが重要であり、その要素として、患者の生活背景への配慮、患者や家族の懸念についての理解や希望の尊重、コミュニケーションスキル、親切さや礼儀正しさといった態度が挙げられる。がん患者の退院に関する意思決定の参加や、緩和ケアチームの治療プロセスへの関与は、退院調整の質をさらに向上させると考察する。

[結論]

本研究は、人生の最終段階を迎えたがん患者が大学病院等の高度専門医療機関から退院する際に、医療専門職がとるべき配慮について具体的な知見を与える。特に、退院に関する説明は重要であり、その内容に配慮し、早い時期に実施すべきである。